

NO.7

イヌエンジュ

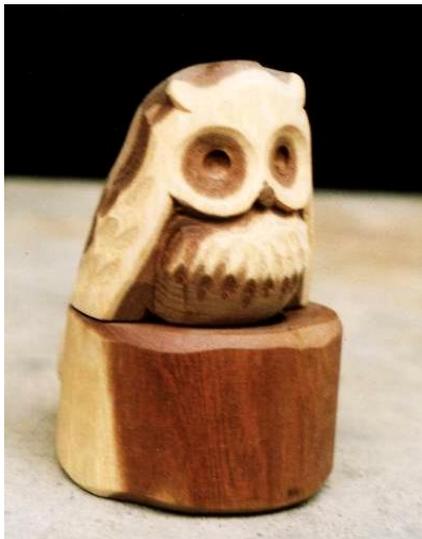
(マメ科)

この木は一見特徴のない木ですが、枝を輪切りにしてみると、とても特徴のある木だということが分かります。輪切りの中心部（心材部）は黒褐色、周辺部（辺材部）は白っぽい色をしており、色の対比がとても明瞭です。この特徴を利用して、名札や人形、飾り棚などによく使われます。

高さ15mほどになる落葉高木で、秋に長さ4～9cmほどのマメの実をつけるので、マメ科の植物であることが分かります。葉は複葉（小さな葉がたくさんついて1枚の葉となっているもの）で、3～6cmの小さな葉（小葉）が3～5対つき、全体の長さが20～30cmほどあります。若葉には、白い軟毛がたくさんついており全体が白っぽく見え、山の中では春先ひととき目立ちます。公園に植えられている木は、本州の中部地方以北に自生するイヌエンジュと思われますが、島根県内にはよく似たハネミイヌエンジュが自生しており、若葉は白い花のようにも見えます。なお、街路種などによく植えられているエンジュは中国原産の外来種で、日本のイヌエンジュとは実の形が大きく異なります。



▲ 島根県内に自生するハネミイヌエンジュ：芽立ちの葉が白い ▲ よく似た中国原産のエンジュ：街路樹などに植栽



▲ イヌエンジュの材で作ったフクロウの細工物：白い部分が辺材部、こげ茶の部分が心材部